

【症例提示用検査値】

【入院時】

【入院後】

【精神科病院一般病棟転院前】

RIS開始時

RIS追加5日目

検査項目		単位	正常値 <sup>1-4)</sup> (男性/女性)	検査値			
身長		cm	-	172		172	172
体重		kg	-	96		95	93
薬物血中濃度	バルプロ酸	VPA	μg/mL	40~120	-	-	115
	白血球数	WBC	10 <sup>3</sup> /μL	3.3~8.6	12.4	11.2	9.3
血算	赤血球数	RBC	10 <sup>9</sup> /μL	4.35~5.55 / 3.86~4.92	5.01	5.21	4.82
	ヘモグロビン濃度	Hb	g/dL	13.7~16.8 / 11.6~14.8	14.2	11.2	11.8
	ヘマトクリット	Ht	%	40.7~50.1 / 35.1~44.4	43.8	41.1	42.5
	血小板数	PLT	10 <sup>3</sup> /μL	158~348	175	140	142
肝機能	アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ	AST	U/L	13~30	21	58	45
	アラニンアミノトランスフェラーゼ	ALT	U/L	10~42 / 7~23	41	62	63
	ガンマグタミルトランススベプターゼ	γ-GTP	U/L	13~64 / 9~32	65	95	87
腎機能	尿素窒素	BUN	mg/dL	8~20	10	7	12
	クレアチニン	Scr	mg/dL	0.65~1.07 / 0.46~0.79	0.61	0.58	0.62
酵素	クレアチンキナーゼ	CK	U/L	59~248 / 41~153	298	285	257
電解質	ナトリウム	Na	mmol/L	138~145	134	120	131
	カリウム	K	mmol/L	3.6~4.8	4.3	4.0	4.1
	クロール	Cl	mmol/L	101~108	100	89	95
	カルシウム	Ca	mg/dL	8.8~10.1	7.2	7.1	7.3
	マグネシウム	Mg	mg/dL	1.8~2.4	2.4	2.4	2.3
糖代謝	空腹時血糖	FBG	mg/dL	73~109	127	125	121
	グリコヘモグロビンA1c	HbA1c	% (NGSP)	4.9~6.0	7.0	6.9	6.8
脂質代謝	総コレステロール	TC	mg/dL	142~248	291	285	248
	LDL-コレステロール	LDL-C	mg/dL	65~163	191	195	160
	HDL-コレステロール	HDL-C	mg/dL	38~90 / 48~103	35	41	40
	中性脂肪	TG	mg/dL	40~234 / 30~117	280	292	250
尿酸代謝	尿酸	UA	mg/dL	3.7~7.8 / 2.6~5.5	7.2	7.2	7.2
甲状腺機能	甲状腺刺激ホルモン	TSH	μIU/mL	0.35~4.94	2.56	2.32	3.58
	遊離サイロキシン	FT4	ng/dL	0.70~1.48	1.47	1.43	1.03
下垂体	プロラクチン	PRL	ng/mL	3.46~19.40 / 5.18~26.53	7.51	7.85	31.1
炎症	C反応性蛋白	CRP	mg/dL	0~0.14	2.51	2.36	1.89
その他	アンモニア	NH3	μg/dL	12~66	32	37	95
心電図	QTc間隔	QTc	msec	0.45以上 / 0.46以上	0.41	0.42	0.45
処方薬				なし (未治療)	オランザピン筋注用10mgを3日間 オランザピン20mg/日	オランザピン10mg/日 リスベリドン12mg/日	オランザピン錠10mg 1錠 就寝前 リスベリドン錠2mg 5錠 (2, 3) 朝・夕食後 バルプロ酸Na錠200mg 6錠 朝・夕食後 クロナゼパム錠0.5mg 6錠 毎食後 レボカルニチン塩化物錠300mg 3錠 毎食後 フルニトラゼパム錠2mg 2錠 就寝前 トリアゾラム錠0.25mg 2錠 就寝前 ラメルデオン錠8mg 1錠 就寝前 トラゾドン錠50mg 1錠 就寝前 ウルソサン錠100mg 6錠 毎食後 イコサベント酸エチル粒状カプセル900mg 3包 毎食後 アトルバスタチン錠10mg 1錠 夕食後 フェノフィブラート錠200mg 2錠 朝・夕食後

1) バルプロ酸ナトリウム添付文書

2) 日本臨床検査標準協議会 基準範囲共用化委員会. 日本における主要な臨床検査項目の共用基準範囲 - 解説と利用の手引き -. [https://www.jccls.org/wp-content/uploads/2020/11/public\\_20190222.pdf](https://www.jccls.org/wp-content/uploads/2020/11/public_20190222.pdf)

3) 渡辺昌祐, 江原高. リチウムの血中濃度と臨床的意義. 医学と薬学 1983; 9(6), 1789-1794.

4) 金古義明. 薬剤性QT延長症候群とその対処法. 月刊薬事 2013; 55, 1369-1373.